

12/1957

13日開幕した国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議(COP28)は、COPの合意文書を初めて「化石燃料からの離脱」を盛り込みました。会議を翻ったのは、地球が温暖化といふか「温暖化」の時代に突入したという迫った危機感でした。対策強化」「一刻の猶豫もなきなり」とが語られました。石炭火力発電を廃止する鹿田文雄政権の姿勢は世界に通用しません。

主張

COPと岸田政権

・5度以内に抑えるために不可欠
とした目標です。

印度で見なかつたJYOTI
が國やZICOから失業の
つまつた。脱炭素の足を

い技術を前提に、石炭火力の延命を主導すれば、遠い将来への廃止の先送りです。

目標引き上げ対策強化を

方」で化石燃料から離脱し、50年までに実質排出ゼロを達成するため、30年までに行動を加速させることも確認しました。再生可能エネルギーの設備投資は世界での信

た國の「いが日本だす。」
喜田萬程は國體精神の發揚者で、
石炭火力の導入を主張し、環保に
CO₂からあたも「化石燃」を導入
しました。日本は世界一の国(C)
以上のCO₂削減です。日本をH
バニヤー日本が国で国際化してく
るの20年間は2020年のトランシ
ーIPCC第6次評議書「収録

ガバの通商回覆は、世界平均よりも低い、消極的な回復です。歐米諸國も早くも大いに貿易をしてしまお。〇〇%輸出の國もしくは日本と並んで累たれ債務が

刻の猶予もなきないのが語れました。石炭火力発電に西欧する岸田文雄政綱の姿勢は世界に通用しません。

脱炭素の足引つ張る日本

卷之三

7 (7) 器用・機械

「オッショウ」(見せかけの環境対策)

向けて取り組みを加速させる必勝
必勝。^{べつしゆ}

7) の中で唯一、石炭火

「オッシュショ」(見せかけの環境対策)と批判されて当然です。

回転で脳の痛みを加速させる傾向があります。

金言文選上卷

排出削減対策がとられていない

撤退期限を示してい

卷之三

があります。

しかし、非効率的な化石燃料補助金を止めることで、より効率的なエネルギー政策が実現できると信じています。

日本は既に、この技術を確立しておる。一方、米国では、この技術を開発して、「酸化オノン」を減らすとして、ジア諸国にも「排出削減み」の石炭火力を輸出が禁じられておる。実用化の見通しがない。

元素(C)での大幅削減です。石炭火力の新規建設・計画、輸出を中止し、30年と石灰火力の発電量をゼロにすることを目指す方針である方針で、これは日本が果たすべき国際的責任です。

ギーは未来に向けた投資です。新たな雇用を創出し、地域に根差した持続可能な経済を発展させることで、豊かな可能性へとつなげていける道を進むべくです。